

ICTで現場の生産性向上

国交省 効率・高度化を重視

国土交通省は、建設生産システムの生産性を向上させるため、ICT（情報通信技術）を活用した技術開発に乗り出す。建設分野で取り組む総合技術開発プロジェクトの新規テーマとして2008年度の技術研究開発関係予算概算要求に盛り込む方針で、調査・計画、設計、施工、維持管理の各段階の情報をトータルステーション（TS）、レーザースキャナ、3次元機械制御建設機械などで有効活用し、建設生産システムの効率化、高度化を実現する。

建設業の労働生産性は、過度な重層下請構造が非労働生産性を他産業に見え、CADなどでデジタル製造業など他産業に比べ、効率になっていないことが、劣りしないレベルまで引上げ、調査・計画、設計、施工、維持管理の各段階の情報をトータルステーション（TS）、レーザースキャナ、3次元機械制御建設機械などで有効活用し、建設生産システムの効率化、高度化を実現する。

これにより、3次元CADによる設計データを、施工者が施工現場で活用し、施工計画を時系列的に把握、情報を共有することによって、施工計画を最適化できる。

さらに、無人バックホウなど3次元機械制御建設機械を活用し、施工データと設計データを照合し、リアルタイムに出来高を確認できることで、効率の向上が期待できる。

また、レーザースキャナを、施工現場で活用し、施工データと設計データを照合し、リアルタイムに出来高を確認できることで、効率の向上が期待できる。

さらに、無人バックホウなど3次元機械制御建設機械を活用し、施工データと設計データを照合し、リアルタイムに出来高を確認できることで、効率の向上が期待できる。